

地震や津波から身を守るために

地震時の行動

まず身の安全の確保を

- 揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全の確保を最優先に行動する。(シェイクアウト)
- ケガをしたら火の始末や避難行動に支障が生じるため、平時のうちから家具類などの転倒・移動防止対策をしておくことが肝心。

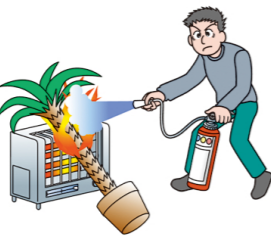


津波が来る前に

地震直後の行動

すばやく火の始末、火が出たらすぐ消火

- ふだんから習慣づけておくことが大切。火元付近に燃えやすいものは置かない。
- 火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- 出火した時は、落ちついて消火する。



戸を開けて出口を確保

- 特にマンションなどの中高層住宅では出口の確保が重要。逃げ口を失ったら避難ができない。
- 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。



外へ逃げるときはあわてずに

- あわてず落ち着いた行動を。
- 屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



狭い路地やブロック塀には近づかない

- 屋外で揺れを感じたら、公園などに避難する。落下物やブロック塀などには近づかない。



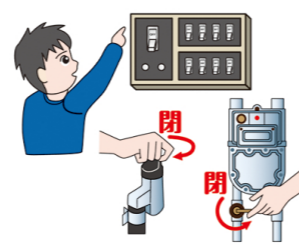
津波、火災、山崩れ、がけ崩れに注意

- 地域に津波・火災などがせまり、身の危険を感じたら避難ビルや避難場所に避難する。



避難の前に電気・ガスの確認

- 避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



地震後の行動

隣近所で声をかけ合って

- わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認し、まとまって行動する。



協力し合って救出救護

- 二次被害に注意しつつ、倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



正しい情報を得る

- 防災行政無線、ラジオやテレビなどから正しい情報をつかみ、的確な行動をとる。



津波から命を守るために・・・すぐに高いところへ避難!!

日頃からの備え

- 津波ハザードマップや津波情報看板等で、津波による浸水予測や避難場所、避難経路をあらかじめ確認しておく。
- 防災訓練に参加して避難ルートなどを確認したり、家族に小さい子供や、お年寄り、病人などがいる場合は、どう避難させるかあらかじめ考えておく。
- マイ・タイムライン(避難～計画)を作成しておく。

海岸近くで地震を感じたら

- すぐに海岸から離れて、高台などに避難する。
- 高台へ避難できない場合、津波避難タワーなどに避難する。



率先して避難しましょう!!

- 「周囲の人が避難しないから大丈夫」ということはありません。自ら率先して避難行動をとることが、ほかの地域住民の避難を促します。



避難は徒歩で

- 自動車による避難は、交通障害の原因となったり、避難支援活動の妨げになるおそれがある。津波から避難するときは徒歩により避難する。



想定を過信しない

- 地震や津波は自然現象であり、想定を超える可能性がある。「浸水想定区域外だから大丈夫」「津波警報が出ていないから大丈夫」ということはありません。



津波は繰り返し襲ってくる

- 地震がおさまっても、津波は数時間も続く場合や、第1波よりも第2波、第3波の方が高くなることもある。津波警報等が解除されるまでは、荷物を取りに戻ったり、様子を見るために海岸に近寄らない。



地震と津波に備えて

今いる場所が、津波災害警戒区域内の場合、「最大津波到達時間」と「基準水位」を確認してみましょう。(大磯町内の数字が記載されている箇所が津波災害警戒区域です。)

地図面に記載されている「最大津波到達時間」と「基準水位」を記入してみましょう。

最大津波到達時間 _____ 分
 基準水位 _____ m

地震の揺れに対する避難行動をしましょう。

屋内にいる時

シェイクアウト(安全確保行動)をとりましょう。



- 避難する時は、忘れずにガスの元栓を閉め、ブレーカーを落としましょう。

屋外にいる時

- 住宅地の路地にあるブロック塀、電柱や自動販売機が倒れたり、屋根瓦などが落下してくる場合があるので、注意しましょう。
- 揺れが落ち着いたら、避難場所に避難しましょう。